

再発見 The Art of Refereeing (6)

第4章 4.よい位置をとること再読

キック

キックオフで重要なことは、キッカー側の全員が蹴られるまでボールの後ろにいるかどうかを見ることです。レフリーの最もよい位置は、プレーヤーが並んで待ち構えているのと反対側でキッカーと水平の位置です。キックがなされるのに近づくようにボールを追いかけます。

ドロップキックについては、キッカーがちょっと走ってから突然方向を変え反対の方向へキックすることがありますから十分警戒しなければなりません。キッカーと同様に走り出し、キッカー背後につくように走り、キッカーの邪魔にならないことです。

ペナルティキックでゴールへプレスキックが行われる場合の最もよい位置は、フィールドの内側、ボールと水平の位置で2~3ヤード離れたところです。この時点でキックされる前にキッカー側の誰かがボールに出ているか判断するのは容易なことです。

レフリーはボールが飛ぶのを追うように走りことはよい位置へ行くこととなります。特にクロスバーのごく近くに落下するように見える時はそれを見るのによい。レフリーがボールのすぐ近くにいないければ太陽に照らされてクロスバーのどちら側に落ちたかの判断するのが大変困難です。レフリーは判定が可能な最もよい位置にいたってはなりません。それは経験的にもゴールポストの近くです。

タッチジャッジがレフリーを助けるためにいることを覚えておきなさい。しかし最後の決定はレフリーがレフリー自身でするものです。

フェアキャッチのあとのプレスキックでボールのプレーサーが必要な時は、プレーサーからプレーサーの後、少し離れた所に立たねばなりません。その位置でこそボールが地上に置かれる瞬間が明白に判断出来、同時にそのまま保たれていることと相手側のチャージについて注目できるのです。

ペナルティでタッチキックが行われている時はキッカーが突然に考えを変えて他の方法をとった時でも邪魔にならないように注意しなさい。とくに短いキックやランパス展開を図るタック（チョン蹴）に注意を払っていなさい。

これらのことが可能になった Law の採用によってレフリーの仕事は一段と難しくなりました。レフリーは相手方プレーヤーがマークから10メートル退くのに全力を尽くしているか見なければなりません。キッカー側はボールが蹴られるまでボールの後ろにいることも見なければなりません。キックがマークを通る線上でなされるか見なければなりません。加えるに全体的にキッカー側は出来るだけ早くキックしようとはします。それは相手をびっくりさせる戦法であわてさせて利益を得ようとするものです。そのような状況ではレフリーは機知を働かせてキッカーの意図を察知して警戒する以外にはないことを忠告します。

選択できるもう一つのキックとしてはゴールを狙うドロップキックがあります。これはセットピース以外の全ての一般プレーで走っている間に突然行われるものでインターセプトと同じレフリーにとって悪夢というべき困った出来事です。レフリーが気付かなかったり、見えなかったりすることが起こりやすいものです。更に困ったことにタッチジャッジの助けもありません。レフリーはボールが蹴られたか、蹴られなかったか、バーを越えたかどうかを自分一人で判断するのです。ただし、ドロップキックはそれが行われる、または行われそうな微候があります。レフリーの仕事を知っているレフリーはそれらに注意を払うのです。明白な例はスクラムがゴールポスト近くで組まれた攻撃側がボールを入れる場合です。フライハーフがいつもより深くスクラムの後寄りに位置しているならばドロップゴールを試みようとしているムードを明らかに示しているのです。そのような状況ではレフリーは自動的によく見えることの出来るよう位置をとります。他のドロップの場合は飛んでいるボールに沿うように追う位置をとるべきです。それに失敗したら出来るだけ早くゴールポスト直下へ行かねばなりません。バーを越えたかどうか判定できる最高の機会を得ることとなります。一般的に言って攻撃側がドロップゴール到着範囲である時はその可能性があることを心に留めておくことが何より大切です。このような意図を予期できるということ、突発的に起こる色々な出来事を処理するという目標に半ば以上近づいているということです。ドロップゴールの問題はゲーム中出来るだけプレーのインフィールド側に位地することは有益なことであることを改めて強調しているのです。

よい位置の問題についてはもっともと言わなくてはならないかもしれないがそれは全てレフリー自身が実際にやってみて経験して初めて分かる事柄です。最も有効なことは常に爪先で立っている習慣を身につけることです。そして常時プレーヤーが意図しているであろうことを予知する準備をしていることです。平素暇な時にどんな時にどんな位置にいたらよいかということをおい浮かべていなさい。心にそういう字がしっかり描けるようになれば驚くほど色々な場面に出会っても正しい位置に行く助けになるでしょう。

大観衆も起こりつつあることに最もよい位置で見ているわけではない問題を抱えているのです。

まとめ

便利なようにこの章の教訓にあたることを簡単にまとめました。

1. きっちりした服装をしなさい
2. ゲーム前に時間の余裕を持つようにしなさい
3. ゲームが始まる前には必要な情報の全てを確かめなさい
 - ・グラウンドについて
 - ・タッチジャッジについて
 - ・時間について
 - ・キックオフする側等々
4. レフリーがフィールドで一番重要な人であることあなたが思っていると言うような機会を誰にも与えてはいけません。あなたが心にそう思っている態度にして表わさないように努めなさい。
5. あなたの考えと判断を明確にプレーヤーに話して説明するように笛と合図を使いなさい。
6. 常に動き続けなさい。フィールドのインサイド側のように努めなさい。沈着であること。
7. スクラムで見なければならぬことを心にはっきりとさせておきなさい。立つ位置やプレーの動きにつれて。
8. ラインアウトの最中に起きることを見ることが出来、ラインアウトの後に起きることから離れてしまうことなく。
9. ゴールラインの近くでは例え他のことは見逃してもボールがラインを越えてグラウディングされる最重要な瞬間を見逃さないように。
10. あらゆる種類のキックに対して練習してどうしたらよいか学ぶこと。
11. 常に今起きていることに対して注意し続けなさい。そして一方では次に起きるかもしれないことに注意しなさい。
他の言い方をすれば先を予測せよということになります。

そして、

12. タッチラインの近くに居続けるな。

注意：本文は古い本の再読のため、ルール及び解釈は当時のものをそのまま使用しています

2010. 10. 30

西川 義行